

荒川(下流域・上流域)流域治水協議会

議事概要

日時:令和6年2月29日(木) 14:00~16:00

会場:羽越河川国道事務所 大石ダム会議所(WEB併用)

議事(1)

荒川水系流域治水プロジェクト2.0の策定について

- ・策定案のとおり承認された。

【主な意見】

(村上市長)

- ・浸水世帯数について、現況約2,210世帯が気候変動によるリスク増大で約2,599世帯、目標概ね30年で0世帯ということですが、この0世帯というのは現実的な数値ととらえてよろしいでしょうか。また、支川や普通河川分は対策の中に含まれているのでしょうか。

(事務局)

- ・0世帯を目指した対策を計画します。今回は、気候変動による荒川本川の流量増加に対する洪水調整施設の整備等、基本的な方針をお示ししたもので、具体的な対策内容については、河川整備計画の変更の過程で検討を行います。
支川や普通河川の対応は含まれておりません。新潟県、自治体には引き続きご尽力をお願いいたします。

(関川村長)

- ・現行の河川整備計画は昭和42年羽越水害の洪水流量の9割となっていますが、気候変動を考慮した河川整備計画の変更はいつになるのでしょうか。

(事務局)

- ・具体的な時期は決まっておりませんが、今回流域治水プロジェクト2.0をお示ししておりますので、近い将来と考えております。

(胎内市長)

- ・浸水世帯数0を目標に掲げることは大事だと思います。溢れることも考慮した減災対策、被害対象を減らすことも大変重要だと考えます。これから先、議論・検討を集積していく中で、本川及び流域において我々も一緒になって考えていきたいと思っています。

議事（２）

特定都市河川指定に向けた検討について

【主な意見】

（胎内市長）

●浸水被害防止区域の指定について

- ・ 災害リスクゼロにする・人命を守るという、大切な着眼点だと思います。ここ何年かで大雨災害等が激甚化している。中国地方等のように、被害の可能性の高い区域に多くの方が住んでいて被災されたということも踏まえて、開発規制・建築規制が「できます」で留めておいては弱いと思うので、より踏み込んだ議論を進めていただきたい。

（村上市長）

●雨水浸透阻害行為の許可について

- ・ 開発規制・建築規制を 10,000 m²から 1,000 m²に下げるコンパクトなレベルでの規制となります。例えば住宅を建てるときに、この規制によってコスト高となりますが、それに対する配慮は想定されていますか。
- ・ 例えば 1,000 m²程度の宅地を点在して開発するとしたときに、各々について雨水貯留浸透施設が必要になるということでしょうか。

（新潟県土木部河川管理課）

- ・ 現状では調整池や雨水貯留浸透施設等の設置に対する補助等はありません。
- ・ 例えば 1,000 m²程度の宅地を点在して開発する場合、各々に雨水貯留浸透施設が必要になります。

議事（３）

流域治水の自分事化に向けた取り組みについて

【主な意見】

（村上市長）

- ・ 住民の皆様が主体的に取り組むことが重要で、行政が全てやれる訳ではないことを住民の皆様に理解していただきたい。村上市職員 760 人で市民 54,000 人を守らなければならないという状況が令和 4 年 8 月豪雨のときにあったが、住民一人一人が主体的に行動しなければ命を守れないということを、まさに自分事として行動することが重要だと思います。

気候変動の状況も変化していくと思われますので、訓練の精度を上げるなど自分事

化の取組をバージョンアップしていくことも重要だと思います。

議事（４）

令和５年度プロジェクト取組状況について

【主な意見】

（村上市長）

●気象情報の充実、予測精度の向上について

- ・ 令和６年度より府県単位で線状降水帯発生予測が発表されますが、村上市など県境に位置している自治体については新潟・山形の両県に発表されるのでしょうか。

（新潟地方気象台）

- ・ 複数県に跨がる場合は、その県毎に発表がなされます。

（小国町長）

●砂防設備の除石、流木撤去について

- ・ 昭和４２年の羽越水害では流木の被害が甚大だったが、令和４年８月豪雨では水位は橋を越えていたが流木は羽越水害ほどではなかった。これが下流へ流れたら大変なことになります。赤芝・荒川水力等のダムもありますし、流木対策は重要です。今後とも引き続き対策をお願いします。

（飯豊山系砂防事務所）

- ・ 引き続き関係機関と連携して流木対策を進めてまいります。

<全体を通しての各首長からの意見>

（村上市長）

令和４年８月豪雨災害を経て、二線堤・輪中堤を含めより強靱な防災体制となる「流域治水プロジェクト２．０」にバージョンアップいただくとともに、令和５年度のプロジェクト取組についても着実に実行していただき、感謝申し上げます。

本日は特定都市河川指定に向けたご説明もありました。一級・二級・普通河川、各々の河川管理者がしっかり連携をして、この河川からのリスクをどう守っていくのか、自分事化の取組もありますが、その上でやはりハードとしての整備の必要性が大事であります。

村上市としても国・県の皆様としっかりと連携をさせていただきながら、烏川流域の流域治水の実効性を高めるため特定都市河川の指定について、今後意見交換を踏まえながら検討を進めさせていただくことを宣言いたします。何卒よろしくお願いします。

（胎内市長）

改めて流域とは上流・下流、本川・支川、全てがつながっている認識をしっかり持つことの必要性の高さを再認識しました。

自分事化の取組ではキーワードとなる「自分のために・みんなのために」は、常に必要な心構え・認識であると思います。

胎内市としても、国・県・近隣の市町村の皆様方としっかり連携をして、我々ができることをしっかり努めていくことが自らの為にもなり、関係する方々の為にもなるという心構えで取り組んでいくということを宣言いたします。どうぞよろしくお願い致します。

（関川村長）

2040 年頃には洪水発生頻度が 2 倍になるという本日のご説明を踏まえ、河川整備計画の変更を早く行っていただきたいと思います。河川整備は基本中の基本ですので、早く促進していただきたいと思います。令和 4 年 8 月豪雨で関川村では、土砂による湯沢地区の被災、浸水による高田地区の被災がクローズアップされました。住民が安全に生活できるように引き続き連携して事業が促進されるようお願いいたします。

また、高田地区では、県・国のご当局から地元に入り地域の方々と議論いただき、感謝申し上げます。

高田地区における流域治水の実効性を高めるという意味では、特定都市河川の指定を是非お願いしたいと思います。皆様との意見交換をしつつ、関川村でも検討していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

（小国町長）

小国町に降った雨は最上川ではなくて全て新潟県に流れます。水の多さはなかなかコントロールが難しいのですが、流木はコントロールが比較的やり易いと思っておりますが、赤芝が何らかの形で閉塞すると小国町は 3 ヶ月くらい水没してしまいます。

小国町は荒川流域の上流域に位置することでの責任とリスクがあります。畑地・水稻など水路も重要な位置付けになりますし、場所毎で対応を考えていかなければならないと考えております。上流域もがんばって防災・減災に努めてまいりますので、よろしくお願い致します。